市民の目線で進める
協働と納得のまちづくり

これからの“新しい能代”を創造していくために、市民の皆さんと市が対等の立場で、
力を合わせ、納得できる地域を創っていく「協働と納得のまちづくり」。
これまでのさまざまな活動を通じ、市内には、協働の芽が出てきています。
住民がまちづくり活動に参加することで何が変わるのでしょうか？

ケース1 除排雪

解決の糸口は行政と住民、住民同士が情報を共有すること

地域の除排雪を考える取り組み 除排雪ワークショップ

市では、毎年約1億円の費用を充てて市内の道路除雪を行っていますが、毎年、冬になると市には除排雪に対する意見が多く寄せられます。市民意識調査でも、除排雪に対する皆さんの不満は結果に表れます。

そこで、16年8月から約半年間に渡り、末広町第2自治会と上町自治会をモデル地区として、市と地域の皆さんが一緒になって除排雪を考えるワークショップを開催しました。

ワークショップでは、まず市の道路除雪の方針について説明し、参加者に理解してもらうことから始めました。

次に、住宅地図を見ながら、地域の危険個所や困っていることなど、参加者が、日ごろの生活から感じる問題点をすべて出してもらいました。

その上で現場を確認し、どういう対応をとるのか、市がやること、地域でやること、市と地域が協力してやることを決めていきました。

○末広町第2自治会の場合

末広町第2自治会では、次のような取り組みが行われました。

①町内の道路の常時除雪

町内の格子状の道路が除雪路線となっておらず、冬期間にはゴミ収集車が入れないこともありました。そこで、試験的に常時除雪を行い、各家庭の前に寄せられた雪は、地域の皆さんが寄せることにしました。

②緑地帯の排雪

道路の雪を地域内の緑地帯に排雪していますが、緑地帯が狭く、すぐにいっぱいになってしまいます。以前から市が積み込み機械を貸し出し、自治会でダンプを準備して排雪しており、この取り組みを継続することにしました。

③町内の連絡体制

自治会内の関係世帯を4班に組織し、除雪責任者を決め、排雪費用の徴収や除排雪の連絡体制を作りました。

○上町自治会の場合

上町自治会との話し合いでは、次の点が主な問題点として浮かび上がりました。

①秋田銀行南側の道路

『秋田銀行』から『やさしい風』までの道路は、道路幅が広く、機械除雪の対象になる道路でした。しかし、除雪後の雪寄せが大変などの理由で住民の合意が取れず、機械除雪はされていませんでした。住民同士の話し合いで機械除雪されることになりました。

②雪寄せ困難世帯への支援

自治会の1組から9組までの組ごとに、雪寄せが困難な高齢者世帯とそれを支援できる世帯を調査し、雪寄せを支援する体制を整えました。

③町内の排雪

上町自治会の区域は、空き地もなく道路脇に雪を積んでいる状態でした。そこで、自治会でダンプトラックを準備してもらい、市が積み込み機械を出して、協働による排雪作業を行いました。作業の当日は、延べ80人の地域住民が午前、午後の排雪作業にあたりました。

④除排雪問題を協議する場

上町自治会では、地域を上げて除排雪に取り組むため、自治会内に「除排雪会議」を設置しました、自治会長を